

健康通信

市民病院より

問合先 市民病院（☎76-4131）

多発性骨髄腫という病気についてお話しします



▲血液内科部長 西岡 百子

この病気は形質細胞という「抗体を作る血液細胞の悪性腫瘍」です。細菌やウイルス、異物などが体内に入った時、その目印となる「抗原」と呼ばれるものに反応するものが「抗体」です。ワクチンは毒性を弱くした菌や菌の目印部分のみを体に接種し、抗体を覚えさせるものです。通常、一つの抗原に対して一つの抗体をつくるBリンパ球ができ、ヒトの体内では数百から数億種類のBリンパ球がその働く時を待っています。抗原が入るとB細胞が形質細胞に成長し、たくさん抗体を作るようになりま

す。抗体は基本的には小さなタンパク質で、血液検査を行うと総タンパクという項目の中に含まれます。もっと詳しい検査ではIgG、IgA、IgM、IgDあるいはIgEという「免疫グロブリン」と呼ばれる項目になります。このタンパク質が異物にペタペタとくっつき、異物を壊したり、異物を壊す細胞を呼び寄せたりして「免疫」となります。

この形質細胞が悪性化すると、一つの抗体しか作れない細胞が無制限に増えだし、正常な抗体や血液細胞を作るのを邪魔して、出来損ないの抗体をたくさん作ってしまうのです。増えてしまった出来損ないの抗体のことは「M蛋白」と呼びます。M蛋白は腎臓やさまざまな臓器に沈着して、その臓器の機能を障害します。形質細胞は本来、骨の中で増えるため、この腫瘍はさまざま骨の中で大きくなり、骨を溶かして、弱い力でも骨折するようになります。これを「病的骨折」といいます。骨が溶けるために、高カルシウム血症となる場合もあり、この場合は意識障害などもおこり、かなり重症です。発症年齢のピークが60歳代と特

に高齢者で多く、全悪性腫瘍では1%程度です。10万人に2人程度の発症率ですが、発症した場合、感染症や骨折、透析が必要な腎不全などが問題になります。骨折から発症される方、腎臓の機能が急激に悪くなって発症される方が多く、痛み、だるさ、めまい、むくみ、しびれや発熱などで外来受診されて診断がつく方もいます。

骨髄腫を疑われ、受診された際には、採血や尿検査を行った後、骨髄検査で腫瘍量や遺伝子異常を検査し、レントゲンなどで骨病変の検索を行います。評価の結果、症状がなく、進行が遅い「くすぶり型」と呼ばれる骨髄腫の場合、治療をせずに外来で経過を見ることもあります。

最近新しい治療薬が出てきているので比較的良好な成績が得られています。完治は困難ですが、腫瘍の進行や症状を抑えることは可能となります。骨病変に対しては、放射線治療を行うこともあります。完治を目指す場合は、移植可能な年齢であれば、移植も考慮します。いずれにせよ、進行は比較的遅い病気なので、上手に付き合っていくことが大切です。

◆お知らせ

市民病院緩和ケア病棟 ボランティア募集

市民病院では、緩和ケア病棟で花壇や草木の手入れ、患者さんやその家族が心地よく過ごせるための病棟の飾り付けや季節の行事の手伝いなどのボランティア活動を行う方を募集します。

とき 7月9日(火)、16日(火)の午後1時～4時

対象 ボランティア養成講習を2日間すべて受講できる方

申込・問合先 6月28日(金)までに市民病院緩和ケアセンター（☎76-4131、午前9時～午後4時）

※土・日、祝日を除く。



▲緩和ケア病棟